

---

# 藤原唯の唯我独尊

黒やま

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

藤原唯の唯我独尊

### 【Nコード】

N4182BA

### 【作者名】

黒やま

### 【あらすじ】

副会長の藤原唯がみなさんの平和・幸福・私欲のため猛者揃いの生徒会メンバーと一緒に学校を盛り上げていくハートフル？コメディー？？

「こんなんで唯我独尊できるんですかね（前書き）」

突然頭の中に飛来して後のことを考えずに書いてしまった・・・

「こんなんで唯我独尊できるんですかね

唯我独尊とは？  
ゆいがどくそん

人はそれぞれその人にとってかけがいのない尊い存在であるという意味。

「藤原……藤原……」  
ふじわら

誰かが私を呼んでいる。

この声は……

「藤原！藤原、起きんか。」

「かいちよ……まだ書類の整理片付いてません……ごめんなさい」

机の上から顔を上げるとそこには国語教師の佐々木ささきが呆れた顔をして唯を見ていた。

「何寝ぼけとるんだ。」

「ふえ？」

「今は放課後じゃないぞ。だが書類の提出は早めにな、何せこの会長は怖いからな。」

くすくすと周りから聞こえてくる笑い声に顔を真っ赤にし、彼女は

教科書で顔を覆った。

この少女が本編の主人公である藤原唯（ふじわらゆい17）副生徒会長を務めている。

これはよくある生徒会を中心としたおはなし。

太陽が西に傾き帰宅部の生徒が校門から帰宅の途に就こうとする時間、

北校舎の二階の隅生徒会室では今日もよりよい学校づくりのため生徒会役員が

徐々に集まり始めていた。

「藤原さん、今日授業中に寝ぼけていたんですって？しかも会長に怒られてる夢みてたって。」

「はわわ〜、どうしてそれを知ってるの。」

唯と会話をしている女子生徒は同じく生徒会で書記の秋山麻里衣（あきやま まりい17）。

ゆるふわカールのセミロングの髪を2つに結び雰囲気も言葉遣いも上品なのが

実はとても毒舌家で笑顔でさらっと酷いことを言う。

「ん？私の情報網をなめちゃいけないわ。」

「秋山さん、学校一敵に回したくない相手かも。」

ポツリ唯が言い終わらないうちに生徒会室の扉が開く。

「あれえ？藤原ちゃんと秋山ちゃんしか来てないの？」

陽に透けると茶色い髪が金髪に近いくらい明るい色になりとても綺麗な色合いになる。

そんな髪を持つ男子生徒三浦スバル（18）は唯と同じく副生徒会長だ。

彼は父が日本人、母がイギリス人のハーフであるため天然茶髪なのだが

チャライ口調のためその風貌も相まって見知らぬ人からは不良高校生に見られるのだが

本当はいい人であり生徒会で一番まともな人である。

「はい、三浦先輩こそ今日は井上先輩と一緒にじゃなかったんですね。」

「いつも莉咲と一緒にじゃこっちの身が持たないよ。」

「ふふ。三浦先輩、今のお言葉井上先輩にしっかりお伝えしますわ。」

「えっっ！それは勘弁してプリーズ。」

「冗談ですわ。」

「ちよつ、秋山ちゃん冗談きついでよ。」

麻里衣のそんな一言でスバルに冷や汗をかかせる人物、井上莉咲（いのうえりさ）  
18）とは

同じく生徒会の一員であり会計を受け持っている。

そして副会長であるスバルとは幼馴染なのだ。

大体スバルが心身ともに杏子の尻に敷かれている光景をよく目にし、  
本人いわくただの腐れ縁で仕方なく高校まで一緒らしいがはたから  
見ればいいカツプルだ。

「ってーかお父ちゃんがないじゃん。」

「あつ！シヨルイ、しよるい、書類・・・」

スバルの何気ない言葉の中に唯の世界一、いや宇宙一苦手であろう  
人の名前が比喻されて

含まれていたにも関わらず瞬時に理解し同時に本人がいないのに背  
筋を凍りつかせ

書類への漢字変換がすぐに出来ない程の恐怖をもたらす

例の人物に命令されていた書類を鞆から慌てて取り出す。

慌てすぎて逆に鞆からいろいろなものが飛び出し紙やらシャーペンやらお菓子が宙を舞う。

「ぬ〜おっ!」

さらに慌てて拾おうとした唯が何もないところで躓き転倒しかける。しかしそれは未然に防がれた。

なぜなら転びそうになった唯の目の前にちょうど生徒会室の扉を開けた

男子生徒が入ってきて彼女の肩を掴んだためであった。

「危なかったあ。ありがとうございま・・・」

お礼を言おうと顔を上げるとそれはよく見知った人物でこのようなことが起こった原因でもあった。

「おう、藤原。お前書類はどうした。」

「書類ですね!バツチリですよ、ちゃんとここに・・・」

床に目をやるとしつかり唯の足に踏まれボロボロになってしまった書類があった。

「藤原・・・」

「・・・すみません、申し訳ないです、かいちよー。これはですね・・・」

「言い訳無用。」

今唯が真っ青になっている眼前にいるのが学校の帝王……ではない生徒会長の

高千穂結弦たかちほ ゆづる（18）その人であった。

「じんなんでも我独尊できるんですかね（後書き）」

じゅんこれからじゅじゅん

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4182ba/>

---

藤原唯の唯我独尊

2012年1月11日00時55分発行